



創立87周年

武の子

かしこく うつくしく たくましく
(since 1969)

鹿児島市立武小学校 学校だより
〒890-0045 tel099-255-6136
鹿児島市武1丁目35番31号
<http://www.keinet.com/takes/>

12月号

児童数
599名
学級数
24学級

令和5年12月

まだまだ先のこと？

学校長 杉木 正一郎

先日、所用により休みを取った担任に代わって、高学年の教室へ行く機会がありました。その時間は、2学期の算数のまとめテスト、いわゆる県版テストの時間でした。チャイムが鳴る2、3分前に教室へ行くと、子供たちはすでに着席をはじめていました。そして日直の号令で黙想をします。一瞬で子供たちの気持ちが切り替わり、教室が静まり返りました。冊子になったテストを配り、表紙に「検査の日、令和5年12月〇日、学校名、武小学校、〇年〇組、氏名」と必要事項を記入させます。全員が記入し終わったのを確認し、注意事項の4点を黙読させます。よそ見をする子はいません。そして「一つでも多く〇がもらえるようにがんばってください。では、始めましょう。」と伝えると、学級全員が一斉にテストの表紙をめくる「ばっ」という音がしてテストが始まりました。静寂な教室に文字を書く鉛筆の音だけが響きます。子供たちの真剣な姿、緊張感のある様子を見ることができました。

年が明け1月末になると県内の各私立高校で入試が行われます。3月5日、6日には公立高校の入試も行われます。私は、この時期になるとふっと思い出す入試問題があります。それは、1000-198です。これは、私が教員になった今から30年以上前に、実際に出題された鹿児島県公立高校入試「数学」の第1問目です。何と小学2年生で習う計算です。実は、鹿児島県公立高校入試問題のうちの約2割（90点満点のうちの約18点分）は、小学校で学習する内容から出題されていると言われていています。そこで、過去数年の数学の入試問題の第1問目、第2問目はどんな問題だったのか調べてみました。さすがに1000-198のような問題ではあり

大問1 「基本的な計算・知識」		
年度	問1-(1) 整数の四則計算	問1-(2) 分数の計算
R3	$5 \times 4 + 7$	$\frac{2}{3} - \frac{3}{5} \div \frac{9}{2}$
R4	$4 \times 8 - 5$	$\frac{1}{2} + \frac{7}{9} \div \frac{7}{3}$
R5	$63 \div 9 - 2$	$(\frac{1}{2} - \frac{1}{5}) \times \frac{1}{3}$

ませんでしたが、それでも問1-(1)は4年生、問1-(2)は6年生で学習する計算です。入試問題をよく見てみると、この2問だけでなく、小学校で学習したことからの出題は他にもあることが分かります。数学だけでなく他の教科でもそうです。

また、最近の入試問題の傾向として、問題文が長くなっています。どれぐらいの文章量かというと、例えば社会の問題では、テレビ局のアナウンサーがニュース原稿を読むスピードで読んだとしても、全文を読むのにおよそ20分かかると言われます。試験時間50分の中で20分かかるとなると、解答を書く時間は残りの30分ということになります。さらに、解答も文章で、しかも決められた文字数の中で書かなくてはならないものもあります。限られた時間で長い問題文をしっかりと読み、何を問われているかを理解し、どう答えればよいかを考え、そして文章で解答しなくてはならなくなっています。

小学生の子供さんにとっては、高校入試なんてまだまだ先のことなのかもしれません。でも、私の子供もそうであったように、あっという間に大きくなっていくんですね。